

ナシの新樹形「改良流線型仕立」による早期成園化＆省力化

【研究のポイント】

ナシは成園並の収量を得るまで、植え付けから10年以上かかります。大分県ではこれまでに一本主枝樹形「流線型仕立」を開発しており、この樹形は成園並の収量が4-5年で得られ、年間作業時間は一般的な「三本主枝仕立て」と比較して27%短縮可能です。現在県内では新植園を中心に11.3haで導入されています。

一方、普及する中で主枝先端部の枝が十分に伸びないという新たな課題も見つかりました。そこで主枝を3.5mから2~2.5mに短縮し、さらなる作業性改善のため、主枝高を1.5mから1mに下げ、側枝を斜立させる樹形「改良流線型仕立」を開発しました。

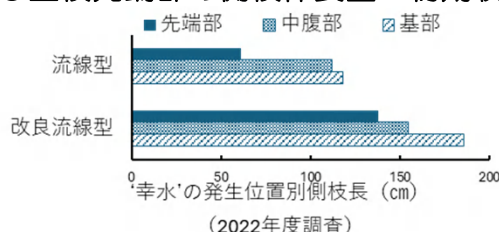


流線型仕立



改良流線型仕立

●主枝先端部の側枝伸長量・初期収量の増加



ナシ「幸水」における仕立法の違いが果実品質と収量に与える影響
(2020-2022年度平均)

仕立	果実重 (g)	糖度 (°Brix)	酸度 (pH)	収量 (t/10a)
改良流線型	308	13.1	5.3	3.1
流線型	317	12.9	5.1	3.4
三本主枝	349	13.1	5.3	3.0

主枝先端部の側枝伸長量が「流線型」に比べ多くなりました。
また、「三本主枝仕立て」と同程度の果実品質・収量となりました。

●作業負担軽減・年間作業の省力化

【研究の成果】

○枝管理作業

改良流線型
流線型
三本主枝



肩から上で作業



肩の高さで作業



肩より下で作業

改良流線型	34%	30%	36%
流線型	50%	20%	30%
三本主枝	55%	25%	20%

○せん定時間 三本主枝の53%、流線型の87%に削減

「改良流線型」は更なる早期成園化が可能であり、枝管理作業の軽労働化やせん定などの熟練を要する作業の単純化が期待されます。

【生産者の声】



成園化も早く、収量もしっかり確保でき、省力的な技術であると、日々作業しながら感じています。特に雇用の方から、「改良流線型仕立の園は作業がしやすい」との声も聞かれ、実際に作業の見落としが少ないです。

品種によっては花芽をつけるために工夫が必要ですが、今後期待できる技術と感じています。

(JAおおいた日田梨部会 小埜準平氏)

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 果樹グループ 落葉果樹チーム
TEL：0978-37-0149（問い合わせは企画指導担当へ0978-72-0407）
住所：大分県宇佐市大字北宇佐65